

「令和5年度独立行政法人医薬品医療機器総合機構契約監視委員会（第4回）」  
議事概要

I 開催日

令和5年12月7日（木）

II 場所

独立行政法人医薬品医療機器総合機構14階会議室21～22

III 出席委員（敬称略）

中村 洋（慶應義塾大学大学院 経営管理研究科 教授）

伊藤 憲二（森・濱田松本法律事務所 弁護士）

鈴木 裕子（東陽監査法人 シニアパートナー 公認会計士）

◎寺林 努（独立行政法人医薬品医療機器総合機構 監事）

○矢野 奈保子（独立行政法人医薬品医療機器総合機構 監事（非常勤））

※ ◎は委員長、○は委員長代理

IV 議題

(1) 審議事項案件

- ① 令和5年12月から令和6年4月かけて入札公告又は契約締結を予定している案件（一般競争入札【最低価格落札方式】を除く。）にかかる事前点検について
- ② 令和5年7月から9月にかけて調達した案件に係る以下の内容についての事後点検について
  - I：随意契約等における価格交渉状況
  - II：一者応札・応募となった案件の次回改善策

(2) その他

- ① 独立行政法人医薬品医療機器総合機構契約監視委員会運営要領の策定について

## V 議事内容

- (1) ① 令和5年12月から令和6年4月にかけて入札公告又は契約締結を予定している案件（一般競争入札【最低価格落札方式】を除く。）に係る事前点検について
- ② 令和5年7月から9月にかけて調達した案件に係る以下の内容についての事後点検について
- I：随意契約等における価格交渉状況
- II：一者応札・応募となった案件の次回改善策

標記について審議及び報告が行われた。主な概要は以下の通り。

| 委員からの主な質問・意見及び当機構の回答  |   |
|---|---|
| 質問・意見   | 回答  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 翻訳業務において、昨今技術の飛躍的な発展もあることから、アプリケーションによる自動文字起こし等を活用することも今後検討してほしい。</li> <li>・ 三者の中で依頼する際、なぜその業者を選んだのか、客観的な判断基準を用いて説明できるようにすること。</li> <li>・ 反訳業務において、昨今技術の飛躍的な発展もあることから、アプリケーションによる自動文字起こし等を活用することも今後検討してほしい。</li> <li>・ 今後の調達においては価格競争が機能する工夫を検討してほしい。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ AI 翻訳等の活用については今後検討する。</li> <li>・ 発注業者については、客観的に見て疑念を抱かれることのない選定基準を作成し、基準に沿った依頼ができるように体制を整えることとする。</li> <li>・ 治験相談等の反訳業務は医学・薬学の専門用語が多用される中で精度の高い文字起こしが求められるものであるが、今後の自動文字起こしのアプリケーションの実用性を鑑み、活用することも検討していきたい。</li> <li>・ 次回調達時は方策について検討して実施することとしたい。</li> </ul> |

## (2) その他

- ① 独立行政法人医薬品医療機器総合機構契約監視委員会運営要領の策定について全委員の了承を得たため、策定に係る必要な手続きを進めていくこととなった。

また、令和5年12月～令和6年3月調達予定案件一覧表（最低価格落札方式）  
についての報告が行われた。

以上